東海学校保健研究　*Tokai J School Health*, 30(1), 35-45, 2006

保健室来室記録のあり方に関する一考察
－養護教諭の職務との関連について－

後藤多知子*1，稲田麻依子*2，清水玲奈*3，日下部香吏*4，古田真司*5
*1 愛知教育大学大学院養護教育専攻
*2 和泉市立信太小学校
*3 西尾市立福地中学校
*4 名古屋市立当知中学校
*5 愛知教育大学養護教育講座

A Study of the Record of First Aid in the School Health Room
－ Relation to the School Health Teacher's Duties －

Tachiko GOTO, Maiko INADA, Rena SHIMIZU, Kaori KUSAKABE and Masashi FURUTA
*1 Aichi University of Education, Graduate of School Nursing and Health Education
*2 Shinoda Elementary School, Izumi
*3 Fukuchi Junior High School, Nishio
*4 Touchi Junior High School, Nagoya
*5 Aichi University of Education, Department of School Nursing and Health Education

キーワード：
保健室来室記録，記録様式，養護教諭，職務志向

Ⅰ．はじめに

児童生徒の保健室来室理由は様々であり，潜在化している心身の健康問題までも把握する力が，養護教諭に求められている。多様化した子どもの来室理由に適合し，しかも，子どもが生涯，健康な生活を送るための自己管理能力を高めるための教育的な関わりが求められている。養護教諭にとって，保健室来室者の情報収集と活用，管理は，今後ますます重要になってくるであろう。子ども一人一人への一貫した対応のためには，経験や勘に頼るのではなく，適切な記録を行うことが必要である。

「保健室来室記録」は，養護教諭にとって，養護診断の実施を証明するものである。保健室来室時の子どもの状況や症状，対応した内容と子どもの反応，後処理などが記録される。蓄積された記録からは，長いスパンで把握したからこそ分かる，一人一人の子どもの健康問題や課題，集団としての健康問題や課題が見えてくる。また，記録は，養護教諭自身の思考の過程の表現であり，養護教諭の姿勢が滲み出る。そのため，記録を利用することは，執務の見直しにもつながり，自身の成長を促すことにつながる。近年指摘されている，単独執務体制による問題の緩和も可能となるであろう[1]。

これまでの「保健室来室記録」に関する研究は，保健室の来室状況，来室理由など，記録された内容から学校の子どもの傾向をみた研究[2) 3)]や，保健室来室記録から保健室経営を評価した研究[4)-6)]記録の方法についての研究[7)-10)]があるがその数は少ない。養護教諭の執務における「記録」につい

ての取り組みは，各養護教諭の個人レベルでの工夫についての実践報告[11]にとどまりがちなのが現状である。

ところで，「保健室来室記録」の法的根拠については，学校教育法施行規則第15条においての「学校に備えなければならないとされる表簿」にはなく法的に義務づけられている記録簿ではない。従って，各学校により，来室記録のあり方は様々である。しかし，「記録」のあり方が養護教諭の執務のあり方に影響し[10)-15)]，また，養護教諭のあり方が，「記録」のあり方に影響してくるのであれば，養護教諭と「記録」（執務記録簿，保健日誌，保健室来室記録など）について，今後，様々な観点から研究されていくのが望ましいと考える[16]。

そこで，本研究では「保健室来室記録」の使用状況を調査し，同時に各養護教諭自身の職務志向を明らかにすることで，保健室来室記録のあり方は，何に影響を受けているのか，特に，養護教諭自身の職務のあり方と関連があるのかについて検討することを目的とした。

Ⅱ．対象と方法

2004年10～11月に，無作為に抽出した全国の小学校150校，中学校100校，高等学校100校，養護学校50校の合計400校の養護教諭を対象に，質問紙郵送調査を実施した。予備調査を参考にして作成した無記名自記式の質問紙を郵送し，回答用紙は同封の返信用封筒によって回収した。分析は，協力が得られた251校（回収率62.8%）について行った。

調査内容は，保健室来室記録（以下，来室記録とする）に関する質問８項目（①来室記録の使用の有無，②内科用および外科用の愁訴別来室記録用紙の種類と記録者，③ＰＣソフトを使用している場合の種類とデータ出力の方法，④担任や保護者への連絡カードの有無，⑤連絡カードの対象者，⑥使用している来室記録用紙の短所，⑦使用している来室記録用紙の理由とそのうち最も重要な理由，⑧今後使用したい来室記録用紙と，養護教諭自身と職務実態に関する25項目（経験年数，勤務校種，学校の所在地域，児童生徒数，付き添いや委員会などの来室を除いた１日平均保健室来室者数，養護教諭の配置数，自身の出身養成機関，出身学部・学科，各職務に対する取り組みの自己評価，自己研修に対する意欲）である。「各職務に対する取り組みの自己評価」については，①特に力を入れている，②まあまあ力を入れている，③それほど力を入れていないの３段階で回答を求めた。また，「自己研修に対する意欲」については，①とてもあてはまる，②ややあてはまる，③ややあてはまらない，④あてはまらないの４段階で回答を求めた。なお，来室記録用紙の種類については表１のように定義して回答を求めた。

表１　来室記録用紙の定義

＊**カルテ式**	個人専用の記録用紙になっており、来室日時や症状などをその都度記入していく形式
＊**問診票式**	１回の来室につき１枚の記録用紙を用い症状や体温、生活習慣等の情報を記入できる形式
＊**一覧表式**	１枚の記録用紙に児童生徒の来室順に来室日時、氏名、症状などを記入していく形式

分析の際には，「来室記録用紙の様式分類」として，各養護教諭の記録用紙の使用状況を４つに分類した。「カルテ式用紙使用」はカルテ式用紙やカルテ式ＰＣ入力を示す。「問診票式用紙のみ」と「一覧表式用紙のみ」は各用紙の単独使用を示す。「その他」はカルテ式用紙以外の用紙の併用使用を示す。具体的には，問診票式用紙と一覧表式用紙の併用使用，または問診票式用紙と問診票式ＰＣ入

力または一覧表式ＰＣ入力との併用使用，一覧表式用紙と問診票式ＰＣ入力または一覧表式ＰＣ入力との併用使用を示す。分析の際，このように記録用紙の使用状況を４つに分類した理由は，カルテ式の記録様式は，子ども一人一人の継続的な観察や対応が容易に実施できることから[2) 4) 5) 8) 10) 11) 12) 17)]「来室記録を次回以降の来室時の判断や処置，指導にも役立てる[15)]」ことを重要としているならば，カルテ式記録用紙が最も適しており，その使用状況を重点的に見たかったためである。また，カルテ式以外の記録様式の使用の場合については，「用紙は単独使用か」「併用使用か」で分類をすることにより，養護教諭のこだわりの状況を見ることを目的とした。

さらに，本研究では，表２に示す独自の分類の定義を用い，養護教諭自身に関する質問項目についての回答から，「養護教諭の職務志向パターン」を６つに分けて分析した。ここで言う「職務志向」とは，養護教諭自身が認知した「各職務に対する取り組みの自己評価」と「自己研修に対する意欲」の程度から，各養護教諭の調査時における職務に対しての志向のパターンを見たものである。これまでの養護教諭の職務に関する研究では，養護教諭が重点的に実施している職務内容には差があること[17) 18)]，養護教諭に求められる職務内容は，一般教諭，校長，保健主事，保護者という立場により異なることが報告されている[19)-21)]。また，早坂は[21)] 職務認識による養護教諭の行動様式の４つの類型を示している。今回，それらの研究を参考にし，養護教諭は，勤務校の状況や本人の状況などの影響を受け，職務のあり方にはそれぞれの志向があると認識し，養護教諭の職務志向を６つに分類した。

回答結果の分析には統計パッケージＳＰＳＳfor Windows ver.11を使用した。

表２　養護教諭の職務志向に関するパターン

①オールマイティ志向（完璧追求志向）
：職務項目の多くを「特に力を入れている」と回答。自己研修に対して意欲が高い。

②ジェネラリスト志向（それなり実践志向）
：職務項目の多くを「特に力を入れている」「まあまあ力を入れている」と回答。顕著な志向がなく、広く職務に取り組んでいる。

③個別指導スペシャリスト志向
：他の職務項目に比べ、健康相談活動、保健指導、他の教職員への働きかけ、保護者への働きかけなどに特に力を入れている。

④学校保健組織活動スペシャリスト志向
：他の職務項目に比べ、学校保健委員会、児童生徒保健委員会、他の教職員への働きかけ、保護者への働きかけなどに特に力を入れている。

⑤保健教育スペシャリスト志向
：他の職務項目に比べ、保健教育、保健指導、他の教職員への働きかけ、保護者への働きかけなどに特に力を入れている。

⑥課題対処志向
：職務項目に「まあまあ力を入れている」活動もあるが、「それほど力を入れていない」の回答が多い。自己研修に対してあまり意欲的ではない。
：職務項目に「まあまあ力を入れている」と多数回答し、職務に対するこだわりがあまり感じられない。場当たり的に執務しているとも感じられる。

Ⅲ．結果

1．養護教諭の属性

対象者の出身機関は，４年生大学・大学院が30.3%，短大２年生・３年生が32.4%，その他が37.3%であった。出身学部は，教育系が全体の約６割で，看護系が約２割であった。経験年数は平均（±標準偏差）20.1年（±9.9年）である。養護学校においては経験年数が10年以下の者が多かった。養護教諭の配置は，複数配置実施校が全体の25.4%であった。特に養護学校では，86.7%と高率であった。１日あたりの保健室平均来室者数は14.8人（±10.4人）であった。

2．使用している来室記録用紙の様式と校種との関連について

保健室来室記録を「使用している」養護教諭は92.0%であった。使用の有無における地域性は今回認められなかった。内科用と外科用の用紙の種類を比較すると，カルテ式用紙の使用者と問診票式のみ使用者は内科用が多く，一覧表式のみ使用者は外科用が多かった。

表３，４より，内科用，外科用とも記録用紙の様式と校種には関連が認められた。

表３より，内科用については，カルテ式用紙の使用者が小学校6.3%，中学校11.5%，高等学校18.1%の順に高率であった。養護学校では29.6%であった。小学校，養護学校では，一覧表式のみの

表３　使用している保健室来室記録用紙（内科用）の様式と校種との関連

	来室記録用紙の様式分類　(内科用)				合　計
	カルテ式用紙使用	問診票式用紙のみ	一覧表式用紙のみ	その他	
小学校　度数（%）	5(6.3)	20(25.0)	29(36.3)	26(32.5)	80(100.0)
中学校　度数（%）	6(11.5)	15(28.8)	9(17.3)	22(42.3)	52(100.0)
高等学校 度数（%）	13(18.1)	8(11.1)	12(16.7)	39(54.2)	72(100.0)
養護学校 度数（%）	8(29.6)	1(3.7)	13(48.1)	5(18.5)	27(100.0)
合　計　度数（%）	32(13.9)	44(19.0)	63(27.3)	92(39.8)	231(100.0)

・検定はカイ２乗検定　$p < 0.01$

表４　使用している保健室来室記録用紙（外科用）の様式と校種との関連

	来室記録用紙の様式分類　(外科用)				合　計
	カルテ式用紙使用	問診票式用紙のみ	一覧表式用紙のみ	その他	
小学校　度数（%）	6(7.5)	11(13.8)	41(51.3)	22(27.5)	80(100.0)
中学校　度数（%）	4(7.7)	9(17.3)	17(32.7)	22(42.3)	52(100.0)
高等学校 度数（%）	8(11.1)	4(5.6)	19(26.4)	41(56.9)	72(100.0)
養護学校 度数（%）	7(25.9)	1(3.7)	13(48.1)	6(22.2)	27(100.0)
合　計　度数（%）	25(10.8)	25(10.8)	90(39.0)	91(39.4)	231(100.0)

・検定はカイ２乗検定　$p < 0.01$

使用者が最も高率であり，それぞれ36.3%，48.1%であった。中学校，高等学校では「その他」（カルテ式以外の用紙の併用）が最も高率で，それぞれ42.3%，54.2%であった。また「その他」（カルテ式以外の用紙の併用）は小学校，中学校，高等学校の順に高率であり，高等学校では，半数以上の養護教諭がカルテ式以外の用紙を併用していた。問診票式のみの使用者が多いのは中学校で28.8%であった。

表４より，外科用については，カルテ式用紙の使用者が小学校7.5%，中学校7.7%，高等学校11.1%の順に高率であったが内科用より使用者の割合は少なかった。養護学校では25.9%であった。小学校，養護学校では，一覧表式のみの使用者が最も高率であり，それぞれ51.3%，48.1%であった。中学校，高等学校では「その他」（カルテ式以外の用紙の併用）が最も高率で，それぞれ42.3%，56.9%であった。また「その他」（カルテ式以外の用紙の併用）は小学校，中学校，高等学校の順に高率であり，高等学校では，半数以上の養護教諭がカルテ式以外の用紙を併用していた。

3．使用している来室記録用紙の様式と在籍児童生徒数との関連について

表５．６より，内科用，外科用とも，記録用紙の様式と在籍児童生徒数には関連が認められた。

表５より，内科用では，小規模校（400人未満）では，一覧表式用紙のみの使用が最も高率で

表５　使用している保健室来室記録用紙（内科用）の様式と在籍児童生徒数との関連

	来室記録用紙の様式分類　(内科用)				合　計
	カルテ式用紙使用	問診票式用紙のみ	一覧表式用紙のみ	その他	
小規模校(400 人未満)	7(11.5)	13(21.3)	23(37.7)	18(29.5)	61(100.0)
中規模校(400 人以上 700 人未満)	10(14.9)	19(28.4)	10(14.9)	28(41.8)	67(100.0)
大規模校(700 人以上)	7(10.4)	9(13.4)	14(20.9)	37(55.2)	67(100.0)
合　計　度数（%）	24(12.3)	41(21.0)	47(24.1)	83(42.6)	195(100.0)

・検定はカイ２乗検定　$p<0.05$　・養護学校を除く

表６　使用している保健室来室記録用紙（外科用）の様式と在籍児童生徒数との関連

	来室記録用紙の様式分類　(外科用)				合　計
	カルテ式用紙使用	問診票式用紙のみ	一覧表式用紙のみ	その他	
小規模校(400 人未満)	6(9.8)	8(13.1)	31(50.8)	16(26.2)	61(100.0)
中規模校(400 人以上 700 人未満)	8(11.9)	9(13.4)	23(34.3)	27(40.3)	67(100.0)
大規模校(700 人以上)	4(6.0)	6(9.0)	19(28.4)	38(56.7)	67(100.0)
合　計　度数（%）	18(9.2)	23(11.8)	73(37.4)	81(41.5)	195(100.0)

・検定はカイ２乗検定　$p<0.05$　・養護学校を除く

37.7%であった。中規模校（400人以上700人未満），大規模校（700人以上）では，「その他」（カルテ式以外の用紙の併用）が最も高率でそれぞれ41.8%，55.2%であった。カルテ式用紙の使用については，中規模校では14.9%であるが，小規模校11.5%，大規模校10.4%でほぼ同率であった。

表６より，外科用では，一覧表式用紙使用のみが小規模校で高率で50.8%であった。中規模校，大規模校では，「その他」（カルテ式以外の用紙の併用）が最も高率で，それぞれ40.3%，56.7%であった。なお，養護学校については，全学校が小規模校であったため在籍児童生徒数についての分析の際には集計から除いた。

４．使用している来室記録用紙の様式と養護教諭の経験年数との関連について

内科用，外科用について記録用紙の様式と養護教諭の経験年数との関連は今回，有意に認められなかった。表７によれば，内科用の記録用紙の様式について有意性は認められなかったものの，養護教諭の経験年数が増えるに従い，一覧表式のみの使用者の割合が減っており，また「その他」（カルテ式以外の用紙の併用）の割合が経験年数が10年未満の養護教諭より10年以上の養護教諭の方が高率であった。カルテ式用紙使用には，養護教諭の経験年数との傾向は見られなかった。

表７　使用している保健室来室記録用紙（内科用）の様式と養護教諭の経験年数との関連

	来室記録用紙の様式分類　(内科用)				合　計
	カルテ式用紙使用	問診票式用紙のみ	一覧表式用紙のみ	その他	
経験年数（5 年未満）	1(5.3)	3(15.8)	10(52.6)	5(26.3)	19(100.0)
経験年数（5 年以上 10 年未満）	3(21.4)	2(14.3)	5(35.7)	4(28.6)	14(100.0)
経験年数(10 年以上 20 年未満)	7(12.3)	9(15.8)	14(24.6)	27(47.4)	57(100.0)
経験年数(20 年以上)	21(15.9)	28(21.2)	31(23.5)	52(39.4)	132(100.0)
合　計　度数（%）	32(14.4)	42(18.9)	60(27.0)	88(39.6)	222(100.0)

・検定はカイ２乗検定　有意性なし

表８　使用している保健室来室記録用紙（内科用）の様式と１日あたりの保健室平均来室者数との関連

	来室記録用紙の様式分類　(内科用)				合　計
保健室来室者数／日	カルテ式用紙使用	問診票式用紙のみ	一覧表式用紙のみ	その他	
10 人以下	12(12.8)	22(23.4)	29(30.9)	31(33.0)	94(100.0)
11 人以上 20 人以下	6(8.3)	14(19.4)	17(23.6)	35(48.6)	72(100.0)
21 人以上	6(16.7)	5(13.9)	9(25.0)	16(44.4)	36(100.0)
合　計　度数（%）	24(11.9)	41(20.3)	55(27.2)	82(40.6)	202(100.0)

・検定はカイ２乗検定　有意性なし

5．使用している来室記録用紙の様式と１日あたりの保健室平均来室者数との関連について

表８より，使用している記録用紙の様式と1日あたりの保健室平均来室者数には有意に関連は認められなかった。しかし，１日あたりの保健室平均来室者数が10人以下の養護教諭は，記録用紙の単独使用をしている者の割合が高かった。カルテ式用紙使用の割合については，来室者数が21人以上が最も高く16.7%であった。

6．使用している来室記録用紙（内科用）の様式と養護教諭の職務志向パターンとの関連

今回調査した回答から，養護教諭の職務志向パターンを分類したところ，オールマイティ志向は16.4%，ジェネラリスト志向40.4%，個別指導スペシャリスト志向22.2%，学校保健組織活動スペシャリスト志向4.0%，保健教育スペシャリスト志向4.9%，課題対処志向12.0%であった。表９より，使用している保健室来室記録用紙の様式と養護教諭の職務志向パターンとには有意な関連は認められなかった。しかし，個別指導スペシャリスト志向者は，他の志向者よりカルテ式用紙の使用が多い傾向が読み取れ20.0%であった。

表９　使用している保健室来室記録用紙（内科用）の様式と養護教諭の職務志向パターンの関連

保健室来室者数／日	来室記録用紙の様式分類　(内科用)				合　計
	カルテ式用紙使用	問診票式用紙のみ	一覧表式用紙のみ	その他	
①オールマイティ志向	5(13.5)	9(24.3)	8(21.6)	15(40.5)	37(100.0)
②ジェネラリスト志向	11(12.1)	13(14.3)	28(30.8)	39(42.9)	91(100.0)
③個別指導スペシャリスト志向	10(20.0)	11(22.0)	10(20.0)	19(38.0)	50(100.0)
④学校保健組織活動スペシャリスト志向	1(11.1)	3(33.3)	2(22.2)	3(33.3)	9(100.0)
⑤保健教育スペシャリスト志向	2(18.2)	2(18.2)	5(45.5)	2(18.2)	11(100.0)
⑥課題対処志向	2(7.4)	6(22.2)	8(29.6)	11(40.7)	27(100.0)
合　計　度数（%）	21(13.8)	44(19.6)	61(27.1)	89(39.6)	225(100.0)

・検定はカイ２乗検定　有意性なし

Ⅳ．考察

1．使用している来室記録用紙の様式と校種との関連について

カルテ式使用者は，小学校，中学校，高等学校の順に高率であった。このことから，児童生徒の心身の健康問題が高学年ほど多様化，複雑化していることを受けて，保健室来室状況を場当たり的に捉えて対応していくのではなく，継続的に見ていこうとする養護教諭の意識を感じる。また，全国養護教諭連絡協議会が平成10年11～12月に全国の養護教諭を対象に行った調査において[22]「学校の健康課題は何から捉えるか」（複数回答）という質問に対し「保健室利用状況」と回答した割合が，小学校，

中学校，高等学校の順に高率になり，高等学校では90％を超える結果となっているが，カルテ式用紙の使用の増加にもこの結果が反映されていると考えられる。養護学校でのカルテ式用紙の使用も高率であり，個々の子どもをより捉えようとする姿勢を感じる。横山らの研究[23]においても，養護学校においては，個人用ファイル（カルテ式記録）を作成している学校が多いことが報告されている。

表４より，外科用については，表３の内科用と比較して，カルテ式用紙の使用者が減少していた。これは，内科の愁訴に比べて，外科の愁訴については，養護教諭が継続的に見ていこうとする意識が薄いことを示していると考えられる。また，外科用は，内科用と比較すると，小学校，中学校，高等学校とも一覧表式用紙のみの使用者が多く，反面，問診票式用紙のみの使用者が少ない。

「その他」（カルテ式以外の用紙の併用）の使用については，内科用，外科用共に，小学校，中学校，高等学校の順に高率であった。これは，心身の健康問題が，高学年ほど多様化，複雑化していることを受けて，用紙を併用することで，それぞれの用紙の長所を生かし短所を補うというバッテリー的使用により，記録を執務に生かそうという養護教諭の意向の表れであると考えられる。

２．使用している来室記録用紙の様式と在籍児童生徒数との関連について

小規模校は，内科用も外科用も一覧表式用紙のみの使用が高率であり，在籍児童生徒数が多いほうが，記録用紙の併用をしている養護教諭が多いことが分かった。これは，用紙を併用することで，それぞれの用紙の長所を生かし短所を補うというバッテリー的な使用により，在校児童生徒数が多いことによる個々の子どもの様子が捉えにくい状況を補おうとする養護教諭の意向の表れであると考えられる。児童生徒数が多いほど，養護教諭の記憶には限界があり，記録を詳細に残しておく必要があるのだろう。養護教諭の記憶に頼りがちな子どもへの対応は，印象に残る子どもや頻回来室者については，適した対応が可能かもしれないが，あまり来室しない子どもや軽傷の場合などについては，記憶があいまいになったり忘れがちとなる。従って，「子ども一人一人に対して同様の健康支援をしていく」という姿勢からは遠ざかっていくのではないだろうか。カルテ式用紙については，全体として利用している養護教諭の割合は少ないが，在籍児童生徒数の多少により影響されている者ばかりでなく，中規模校，大規模校でも実施している者がいることから，養護教諭自身の記録に対する意向（こだわり）を感じる。

３．使用している来室記録用紙の様式と養護教諭の経験年数との関連について

今回，養護教諭の経験年数の分類を養護教諭研修事業推進委員会による「養護教諭のライフステージ」に従って４つに分けた。その報告書によれば[24]新規採用から５年次までは「自分の学び方の基本を築く時期で，教育職員としての自覚と養護教諭としての使命感を持つことが求められる時期」，５年次から10年次までは「養護教諭の職務とは何かを改めて考えさせられる時期であり，専門職としての資質を高め，校内の保健活動をどんどん展開していく時期」，10年次から20年次までは「自分の職務を見直し，地域の養護教諭のリーダーとなり，校内や地域と連携した組織的な保健活動が求められる時期」，20次年以降は「スーパーバイザーとして活躍し，学校経営的視点に立って学校保健を推進し，職務を展開していく時期」と，望まれる養護教諭像を示している。このように，養護教諭がライフステージに従い，職能発達していくことが理想であるならば，ライフステージと共に「記録のあり方」も変わっていかなければならないのではないだろうか。用紙の種類，記録の方法や内容，後処理，縦断的な視点など，養護教諭は，自身の記録のあり方を，折に触れて評価して改善していっているだろうか。今回の結果では，使用している記録用紙の様式と養護教諭の経験年数には関連が認められな

かった。用紙の様式だけで判断するのには無理があるが，記録に対する多くの養護教諭の意識の薄さを示しているのかもしれない。

4．使用している来室記録用紙の様式と１日あたりの保健室平均来室者数との関連について

使用している記録用紙の様式と1日あたりの保健室平均来室者数とは有意な関連は認められなかったが，カルテ式用紙使用の割合については，来室者が21人以上が最も高かった。このことは，来室者が多かろうが少なかろうが１人１人の記録を丁寧に残したいという養護教諭の，意向の表れであるのかもしれない。養護教諭の記録用紙の様式の選択は，1日あたりの保健室平均来室者数の多少によるのではないことが分かった。

5．使用している来室記録用紙（内科用）の様式と養護教諭の職務志向パターンの関連

使用している来室記録用紙の様式と，今回分類した養護教諭の職務志向パターンとには有意な関連は認められなかった。養護教諭は全体としては，来室記録に対する重要性の認識がまだまだ不十分であることや，更には，記録を活用していくことの認識がやや低いことを示しているのかもしれない。保健室で収集した情報を整理し，蓄積して，活用していくという重要性を，養護教諭は知識として理解をしていても，実際に実行できているだろうか。とりあえず記録したことで，情報を生かしたつもりになってはいないだろうか。意識的に記録を職務に生かせているのだろうか。もし，記録を，職務に生かす意向が強い養護教諭が多数ならば，職務志向パターンと来室記録の様式には関連が認められるのかもしれない。今回の分析では，有意な関連は認められなかったが，個別指導スペシャリスト志向者は，他の志向者より，カルテ式用紙の使用が多い傾向が読み取れた。カルテ式用紙で記録した蓄積した内容は，子どもの学校生活のみならず日常生活そのものを表す。子どもの体質，性格的な傾向，学級での様子，担任との関わり，家庭での様子など，来室した状況が蓄積されていく。個別指導スペシャリスト志向の養護教諭は，これらの情報を生かして，より的確な個別指導を実践しているのかもしれない。

V．まとめ

保健室来室記録は，来室時の児童生徒の状況や症状，生活背景，養護教諭の対応などが記録されている。その来室記録には規定がなく，ほとんどの場合，各学校の養護教諭の意向により実施されていると言える。今回，来室記録のあり方の実態調査のために，無作為に抽出した全国の小学校150校，中学校100校，高等学校100校，養護学校50校の合計400校の養護教諭を対象に質問紙郵送調査を2004年10～11月に実施した。予備調査を参考にして作成した無記名自記式の質問紙を郵送し，回答用紙は同封の返信用封筒によって回収した。分析は協力が得られた251校（回収率62.8%）について行い，次のような結果を得た。

1．保健室来室記録を使用している学校は，有効回答を得た251校中，231校（92.0%）であった。

内科用，外科用とも来室記録の様式と校種には有意な関連が認められた。内科用については，カルテ式用紙の使用者が小学校6.3%，中学校11.5%，高等学校18.1%の順に高率であった。養護学校では29.6%であった。小学校，養護学校では，一覧表式のみの使用者が最も高率であった。中学校，高等学校では「その他」（カルテ式以外の用紙の併用）が最も高率であった。また「その他」（カルテ式以外の用紙の併用）は小学校，中学校，高等学校の順に高率であり，高等学校では，半数以上の養護教諭がカルテ式以外の用紙を併用していた。問診票式のみの使用者が多いのは中学校であっ

た。外科用についてはカルテ式用紙の使用者が小学校7.5%，中学校7.7%，高等学校11.1%の順に高率であった。養護学校では25.9%であった。小学校，養護学校では，一覧表式のみの使用者が最も高率であった。中学校，高等学校では，「その他」（カルテ式以外の用紙の併用）が最も高率であった。また「その他」（カルテ式以外の用紙の併用）は小学校，中学校，高等学校の順に高率であり，高等学校では半数以上の養護教諭がカルテ式以外の用紙を併用していた。

2．来室記録用紙の様式と在籍児童生徒数には有意な関連が認められた。内科用は小規模校（400人未満）では，一覧表式用紙のみの使用が最も高率で37.7%であった。中規模校（400人以上700人未満），大規模校（700人以上）では，「その他」（カルテ式以外の用紙の併用）が最も高率でそれぞれ41.8%，55.2%であった。カルテ式用紙の使用については，中規模校では14.9%であるが，小規模校11.5%，大規模校10.4%でほぼ同率であった。外科用では一覧表式用紙使用のみが小規模校で高率で50.8%であった。中規模校，大規模校では「その他」（カルテ式以外の用紙の併用）が最も高率で，それぞれ40.3%，56.7%であった。なお，養護学校については，全学校が小規模校であったため在籍児童生徒数についての分析の際には集計から除いた。

3．来室記録用紙の様式と養護教諭の経験年数との関連は認められなかった。内科用の記録用紙の様式について，有意性は認められなかったものの養護教諭の経験年数が増えるに従い，一覧表式のみの使用者の割合が減っており，また「その他」（カルテ式以外の用紙の併用）の割合が経験年数が10年未満の養護教諭より10年以上の養護教諭の方が高率であった。カルテ式用紙使用には，養護教諭の経験年数との傾向は見られなかった。

4．使用している来室記録用紙の様式と１日あたりの保健室平均来室者数との有意な関連は認められなかった。

5．今回調査した回答から，養護教諭の職務志向パターンを６つに分類したところ，オールマイティ志向は16.4%，ジェネラリスト志向40.4%，個別指導スペシャリスト志向22.2%，学校保健組織活動スペシャリスト志向4.0%，保健教育スペシャリスト志向4.9%，課題対処志向12.0%であった。使用している来室記録用紙の様式と養護教諭の職務志向パターンとには，有意な関連は認められなかった。

以上の結果から，保健室来室記録の様式は，来室記録を管理している養護教諭の職務志向パターンには全体としては関連がなく，記録の対象である児童生徒の数や，校種に影響を受けていることが分かった。養護教諭が来室記録をまだまだ活用しきっていない現状の表れかもしれない。

引用文献

1）箕葉夕子，松本昌子，熊谷好乃，鎌田美千代，天野敦子：附属幼・小・中学校における養護教諭の連携に関する一考察－記録を通して子どもを見つめる－，愛知教育大学教育実践総合センター紀要　第６号，37-41（2003）

2）野村美智子：小学校における保健室の内科的利用に関する縦断的研究　第１報，６年間の来室状況，東海学校保健学会，1987

3）小紙幸子，原澤美希：内科的主訴による保健室来室状況についての縦断的研究，愛知教育大学養護教諭講座卒業研究論文集，第３巻，73-76，1999（未発表）

4）野村美智子：小学校における保健室の内科的利用に関する縦断的研究　第２報，主訴に対する判断・措置の目安について，第35回日本学校保健学会，109，1988

5）野村美智子：小学校における保健室の内科的利用に関する縦断的研究　第３報，応急処置活動の

評価の試み，学校保健研究，Vol.42 Suppl，524-525，2000
6）石原昌江，橋本淑子：養護教諭の職務に関する研究（第３報）Ｔ高校における20年間の記録からみた分析,岡山大学教育学部研究集録，(64)，99-108，1983
7）安岡昌子：記録を通して子どもを見つめる，日本教育大学協会養護教諭部門　全国国立大学附属学校連盟養護教諭部会編研究集録，(36)，86-89，2001
8）小牧市養護教諭部会：児童生徒理解につながる情報の共有化をめざして－保健管理システムへの取り組み－，愛知県養護教育研究会誌，第15回，2005
9）山岸稚代：養護教諭の救急処置記録に関する一考察－小学校の記録形態について－，愛知教育大学養護教諭講座卒業研究論文集2006，41-44（未発表）
10）植田誠治，石川県養護教育研究会：新版・養護教諭執務の手引き第４版，380-381
11）辻立世：保健室来室者の電子カルテ「新いちご日記」の活用，健康教室，29(1)，45-47，2000
12）野村美智子：パソコンで広がる養護教諭の実践，「保健室のパソコン」健康教室増刊号2005/2，東山書房
13）養護教諭が行う健康相談活動の進め方－保健室登校を中心に－，日本学校保健会，38，2000
14）中桐佐智子：最新看護学　学校で役立つ看護技術，58-61，東山書房
15）藤井寿美子：養護教諭のための看護学，22-23，大修館書店
16）斉藤ふくみ，後藤ひとみ：研究的視点を探る養護教諭としての試み－執務記録の分析から－，日本養護教諭教育学会誌，Vol.2 No1，46-54，1999
17）萱場治：養護教諭の職務に関する一考察，学校保健研究，22(12)，557-565，1980
18）養護教諭の専門性と保健室の機能を生かした保健室経営の進め方，日本学校保健会
19）山名康子，中薗伸二ら：養護教諭の職務と養成に関する調査研究，学校保健研究，44，181-190，2002
20）小倉学，綿引洋子：養護教諭に対する保護者のニーズ－執務項目選択・要望内容を中心に－，学校保健研究,，Vol 30 No2，78-84，1988
21）早坂幸子：養護教諭の職務認識による行動の類型化,日本養護教諭教育学会誌，Vol 4 No1，69-77，2001
22）瑞星，第２号，全国養護教諭連絡協議会，24，1999
23）横山由美，金田鈴江：養護学校に勤務する養護教諭の現状，学校保健研究，37，484-492，1996
24）養護教諭養成におけるカリキュラムの改革に向けて2000年11月，日本教育大学協会全国養護教諭部門研究委員会，20-22